



みなさんと議会をつなぐ



議会だより

平成27年8月
発行：比布町議会
編集：議会広報特別委員会

PIPPU TOWN ASSEMBLY



お姉さんの隣で「あ〜〜ん」うれしい！おいしい！・・・いちご祭り

- 審議結果・6月定例会…… 2～3
- ここが聞きたい一般質問… 4～5
- 全道議員研修会・委員会の活動報告… 6～8
- 両委員会合同行政視察研修会・
全員協議会…… 9～11
- 議会のうごき…………… 12

6月定例会

次のとおり決まりました
6月11日

平成27年第2回定例会は、6月11日に開催されました。町長から平成26年度比布町繰越明許費繰越計算書について報告があり、人権擁護委員候補者の推薦について、比布町税条例の一部を改正する条例、一般会計・国民健康保険特別会計・後期高齢者医療特別会計・介護保険特別会計・観光事業特別会計、それぞれの補正予算が提出され原案のとおり可決されました。一般質問には、2人の議員から3項目の町政の課題について質問があり、町長及び教育長の考えを問いました。
なお、紙面の都合上、その内容の趣旨のみを掲載させていただきます。

報告

◆平成26年度比布町繰越明許費繰越計算書

地方自治法の規定に基づき、繰越明許費繰越計算書について報告されるもので、一般会計の情報化促進事業、企画関係事務費、ぴっぷ120年記念事業、生活支援サービス事業、交流促進施設運営事業、商工業振興事業、中学生学力向上対策事業の4858万4000円を平成27年度に繰り越して執行する旨、報告がありました。

◆人権擁護委員の推薦

人権擁護委員候補者の推薦につきましては、法に基づき人格識見が高く、広く社会の実情に

諮問

条例改正

◆比布町税条例の一部を改正する条例

通じ、人権擁護について深い理解のある公正な人物を選び、議会の同意を求めるもので、緑町の安藤裕子氏、西町の山田郁枝氏が同意されました。

地方税法等の改正により、関連する本条例を改正するもので原案のとおり可決されました。

《町民税の主な改正点》

- ①外国人に係る法人町民税における恒久的施設に係る規定を法人事業税と同様に規定する見直し
- ②法人町民税均等割の資本金等の額が課税標準に統一される措置

- ③株式等の試算の売却によって得られる差益（キャピタルゲイン）を有する株式等を保有したまま、キャピタルゲイン非課税国に出国し、課税逃れを行うことに対応するため、譲渡所得課税の特例が創設されましたが、個人住民税については、原時点においては適用しないこととする見直し
- ④個人町民税における住宅ローン制度の適用期限の延長をする見直し
- ⑤ふるさと納税に係る特例控除額の上限の引き上げと給与所得者等が確定申告せずに寄付金の税額控除が受けられる、ワンストップ特例制度の創設

《固定資産税の主な改正点》

- ①新築のサービス付き高齢者向け賃貸住宅に係る減額措置の延長及びわがまち特例の導入
- ②土地価格特例を3年間延長する見直し

《軽自動車税の主な改正点》

- ①原動機付き自転車に係る軽自動車税の税率引き上げを1年間延長する見直し
- ②一定の環境性能を有する軽自動車について、その燃費性能に

応じたグリーン化特例、税率を軽くするための見直し

《特別土地保有税の主な改正点》
①課税の特例を3年間延長する見直し

《たばこ税の主な改正点》
①旧3級品の製造たばこに係る特例税率の廃止

《その他》

地方税法等の一部を改正する法律により改正された地方税法の条文のずれの改正及び字句の整理

◆比布町国民健康保険税条例の一部改正

限度額の引き上げ及び国民健康保険税の軽減措置についての所得判定基準に伴う条例の一部改正で、原案のとおり可決されました。

補正予算

◆平成27年度比布町一般会計補正予算（第2号）

臨時福祉給付金支給事業687万4000円、介護保険特別会計繰出金156万6000円、子育て世帯臨時特例給付金

支給事業140万9000円等
が主な増額内容で、原案のお
り可決されました。

◆平成27年度比布町国民健康保
険特別会計補正予算（事業勘
定・第1号）

国民健康保険税の課税標準額
が確定したことによる補正で1
521万3000円を追加する
もので、原案のとおり可決され
ました。

◆平成27年度比布町後期高齢者
医療特別会計補正予算（第1
号）

保険料還付金7000円を追
加する補正で、原案のとおり可
決されました。

◆平成27年度比布町介護保険特
別会計補正予算（第1号）

平成26年度決算に伴う精算及
び介護保険制度改正に伴うシス
テム委託料313万2000
円、償還金利子及び割引料、9
41万6000円の増額等が主
な補正で、原案のとおり可決さ
れました。

各会計補正額と補正後の総額

会計区分	補正額	補正後の総額
一般会計（第2号）	10,392千円	3,994,392千円
特別会計	国民健康保険（第1号）	667,937千円
	高齢者医療（第1号）	64,468千円
	介護保険特別会計（第1号）	544,013千円
	観光事業特別会計（第1号）	111,745千円

() 内は補正回数

◆平成27年特別会計補正予算
（第1号）
スキー学校の老朽化に伴う解
体工事とスキー場管理事務所の
改修工事450万円の増額で、
原案のとおり可決されました。

意見書を提出

第2回定例会において、次の
とおり意見書を採択し、それぞ
れ関係機関に提出しました。

◆地方財政の充実・強化を求め
る意見書

◆道教委「新たな高校教育に関
する指針」の見直しと地域や子
どもの実態に応じた高校づくり
の実現を求める意見書

◆義務教育費国庫負担制度堅
持・負担率1/2への復元、「30
人以下学級」の実現をめざす教
職員定数改善、就学保障充実な
ど2016年度国家予算編成に
おける教育予算確保・拡充に向
けた意見書

◆平成27年度北海道最低賃金改
正等に関する意見書

〔提出先〕

衆参両院議長、内閣総理大臣、
内閣官房長官、財務大臣、総務
大臣、文部科学大臣、内閣府特
命担当大臣（経済財政政策担
当）、経済産業大臣、地方創生担
当大臣、北海道教育委員会教育
長、北海道知事、北海道議会議
長、北海道労働局長、北海道地
方最低賃金審議会長

皆さんも傍聴しませんか

次回の定例会は9月に開会の予定です。
詳しい日程は、無線放送等でお知らせしていますので、ご留
意ください。

◆皆様の傍聴をお待ちしています。◆





Q

比布駅改築に際し

駅前活性化委員会を開いては

関係者の意見を聴きながら、

新しい比布駅の有効利用を検討します

A

遠藤議員 比布駅の改築が今年中に完成することに期待が集まっていますが、町民や町外から、観光客も楽しめるものは何かと考えますと多くの方の知恵と工夫が求められています。

道の駅機能が加わったものも必要ではないかと思っています。また、周辺整備も含め市街地活性化の起爆剤になるよう願っています。「駅と駅前活性化委員会・意見交換会」などを開き具体的な活気がみなぎる駅となるよう町民と議論し意見も取り入れていくことが重要と考えますので町長に伺います。

伊藤町長 J R比布駅の改築につきましては、第11次比布町まちづくり計画に掲載されており実施に向けたJ R側との協議の経過により、当初のまちづくり計画から1年前倒して実施することとなったものであります。

また、本事業の実施にあたっては、実質的には商工会が事務

局を担っております観光協会とも連携を図りながら運営方法等について協議をすすめており、ハード面、ソフト面、ともに関係者の意見が反映されているものと理解しています。

「駅と駅前活性化委員会・意見交換会」についてですが、新たに委員会等を設置する必要はないものと考えています。

しかし、今後の事業運営、さらに周辺整備に関しては、既存の商店や良好村施設と連携した事業の展開など、関係者の知恵や工夫、意見などを取り入れながら、新しい比布駅の有効活用に向けていくことが重要と考えています。

遠藤議員 駅周辺も整備して駐輪場の放置自転車かどうかを明確にし、整理して使えないか考えを伺います。

伊藤町長 現在、比布駐在とも協力しながら、実施をしているところです。整理をすれば駐

輪場自体も色々な使い方は可能になると思っていますので、しっかりと協議をしながら、どんな使い道ができるのかじっくり検討していきます。

遠藤議員 新たな観光施設として建てるのであれば、町民有志も加わった話し合いができたらいと思います。

伊藤町長 いろいろなご意見を伺い良い形でやれば良いと思います。

危険廃棄物スプレー缶などの啓蒙・啓蒙を

遠藤議員 最近スプレー缶の利用が増えていきます。いざ廃棄となると小さい文字に注意書きが書かれていても事故が後を絶ちません。

比布町でもカレンダーの裏に啓蒙・啓蒙をしています。穴を開けたものを回収しています。塗料缶等は外で新聞紙に残りを吸収させるといような具体的

な方法も含めて、再度、啓蒙と消防署での引き取りができるのか町長に伺います。

伊藤町長 委託業者が行う収集・分別作業は、スプレー缶は全てガス抜きがされているかどうか必ず作業員が確認し、ガスが残っていた場合は抜きとるなど、細心の注意を払いながら回収しています。

町民方でスプレー缶の処理が不安であれば、消防署で処理の方法を説明することも可能だと考えています。

遠藤議員 穴を空けずに廃棄するためには、お金もかかりますが、安全の立場から回収する考えはありますか。

踏み出すのは難しいかもしれませんが、将来の方向性を併せてお伺いします。

伊藤町長 回収するということになれば別の車を1台、人を付けて回収するということになりますので、比布町の現状からすると難しいと思っています。啓蒙啓蒙をしっかりとした中で、町民のみなさんのご協力をいただきながら、従来の形で今後も進めて行きたいと思っています。



Q

学校の教育的配慮について

A

子どもや保護者の意見を最大限尊重し
しっかりと体制を作っていききたい

植西議員 子どもたちの抱えている困り感に対する配慮が不足しているように思えます。例えば、特別支援学級に特別支援の免許保持者がいなかったり、また普通教室の教師はその知識に乏しい状況であります。

さらに、せっかく配置したT T（チームティーチング…複数の先生で児童生徒をサポート）もサポートの先生が教室にいないこともあると聞きます。このような状況で生徒の困り感をサポートできるのでしょうか。

そこでS C（スクールカウンセラー…心理カウンセラー）など専門的な外部指導者が関わり子どもたちの困り感を解消させるのが適当と考えますが、教育長の考えを伺います。

谷教育長 文科省の指導のもと、子どもたちの困り感を解消すべく配慮はしています。また校内で委員会を設置して、まずは多く関わる教師が対応し、必

要に応じて保護者や子どもと十分に話し合い、一人一人に対応したいと考えます。

また、S Cを適切に配置し、教育相談体制の充実を図っており、同時にインクルーシブ教育の理念を尊重して普通学級との共同学習も行われているが、どの学校においてもまだ手探りで指導を行っており、課題解決に向けて努力しているところです。

植西議員 S Cが中学校に4時間×18日しか配置されていないのに子どもたちの困り感を理解、察知することはできるのでしようか。また、S Cが常時配置されていない小学校のケアは中学校の時間を割いて実施するのですか。

谷教育長 S Cの活用を保護者や子どもたちに周知しているのに利用が少ないのが現状なので十分ではないかと思えます。

植西議員 S CやSSW（スクールソーシャルワーカー）は

校内を巡回などして子ども様子を回り、困り感を抱えている子どもを察知するものです。

比布中学校では実際に教師が対応できずにSSWが対応していた例もあります。S CやSSWが自由に校内を巡回するなどして子どもたちとなじみ、その上で相談を受けるといいうような環境が備わっていないから相談数が少ないのではないのでしょうか。

谷教育長 乳幼児から中学卒業まで一貫した教育体制を取り、子どもたちの様子を見ていくこととしていますし、近隣の母子通園センターにも協力していただいています。

さらに校内委員会も設置しているので不備は最小限です。

植西議員 特別支援教育を履修している先生が小中一人ずつしかいない中で気づくのに遅れることも、気づかないことも想定できます。知識、経験を持つ

た第3者の目を学校に配置しないと、困り感を救うのは非常に難しいと思われれます。

比布町教育支援委員会には子どもの様々な症状を判断できる方はいるのでしようか。

谷教育長 幼児については保健センターの管轄でできる限りのことをやっています。小中学校では家庭と教師が最も気付きやすいし、校内に専門委員会を設置しているのでそこで協議して対応しています。

植西議員 教師の気付きとS Cの気付きでは専門性に差があると思われれます。今後、S Cが必要になった場合に補正予算を組んでもS CやSSWの期間継続・増設をする考えはありますか。

谷教育長 子どもや、保護者の意見を最大限尊重して、しっかりと体制を作っていくたいと思えます。



北海道町村議会議員研修会

札幌コンベンションセンター 平成27年7月7日(火)

研修会は二つの講演を聞くこ

とで幕を閉じました。一つは中央大学教授今村都南雄氏の「地方議会を取り巻く最近の動向」そしてテレビ朝日コメンテーター川村晃司氏による「これから政局・政治動向」でした。

川村氏の講演は安保法制の再整備についての話しが主でした。今後の政局を左右する重大事項は非常に興味深いものでした。



テレビ朝日コメンテーター 川村晃司氏

今村氏は二元代表制を取る地方議会についての解説とその歴史についてまるで大学で教鞭を執っているかのごとく、熱く語ってくれました。

地方議会は直接選挙で選ばれた首長（執行側）と同じく議員（議決権）で構成されています。



中央大学名誉教授 今村都南雄氏

これは村山首相が行った「地方自治改革」で地方議会改革が始まり、今日に至っています。しかしこの意義が国からの自治法改正や主張しない地方議会によって脅かされているというのであります。

地方議員は国への意見書を提出する権限が認められた他、自ら改革する議会が推進されています。例えば、議員定数について、また議員の発言方法について、より議論が深まる方向に改革することが認められています。

さらには議員を選出する町民の意識も変わらなければ、その町は今後の市町村合併論議に飲み込まれ、その姿を消すことも考えられるとのことでした。

私はこの話しを自分の町に置き換えたとき、選挙の投票率が下がりがつあることや、広報のパブリックコメントを求めるチラシに反応が無いことに危機感を感じました。

しかし議会は二元代表制の一翼であり、町の歴史を創造していく大きな役割を担っていることを自覚し、もっと貪欲に町の未来を見据えた発信をしなくてはならないことを突きつけられました。

議員はいつ何時でも創造することを絶やさず、またそれを支える志を鍛えることが大事ではないかと思えます。

《植西 浩二》



委員会の活動

activities

産業建設常任委員会

6月1日開催

【商工・観光部門】
（報告事項）

・平成26年度観光事業特別会計（スキー場）収支決算及び利用実績

リフト使用料

6583万8500円

昨年7144万6719円

・うちナイター利用状況

296万9020円

昨年比92.15%

最高比33.22%

降雪状況（雪不足）や営業日の減数等が主な要因。しかし、売り上げを伸ばしているスキー場もある。

・平成26年度グリーンパークびつぷ収支決算
使用料等

627万2744円

運営費

2178万3952円

差引△1551万1208円
利用者の減少、新たな利用者の獲得必要。

- ・プレミアム付き商品券発行事業について

- ・平成27年度 ぴっぴいちご狩りについて

【協議事項】

- ・議会提出議案について

- 比布スキー学校の構造柱腐食により倒壊の恐れがあり解体に関わる工事請負費の増額450万円

- スキー場管理事務所は移る予定

- ・スキー場再整備について

- 平成25年6月の委員会より計13回の協議、視察を行い検討してきましたが平成27年度の計画には至りませんでした。

- 前委員会での協議を踏襲し、再整備実現に向けて進んでまいります。

【農林部門】

(報告事項)

- ・作物作付動向について

- 水稲主食米 前年比96.6%
加工・備蓄米 133.0%
小麦が減少し大豆が増えている状況。

- ・作業受委託契約状況について

- 比布町集落営農組織 小麦3件、大豆2件、そば18件
- 平成27年度経営所得安定対策等交付金について

- 非参加者2件

- ・日本型直接支払制度の取組状況について

- ①多面的機能支払

- ②中山間地域等直接支払

- (27年度から) 対象者82名

- ③環境保全型農業直接支払

- ・土地改良事業について

- ・町単独補助事業について

- ハウス補助設置分 園芸用2件

【協議事項】

- ・議会提出議案について

- 農林業費道補助金10万円

- 環境保全型農業直接支援対策事業(2件)の事務消耗品費等の補正

【建設課】

(報告事項)

- ・諸工事の発注及び進捗状況について
- 西町駅前団地B棟建築主体工事

- ・平成26年度簡易水道及び下水道事業の普及率状況
- 簡易水道給水世帯

- 1357世帯、下水道使用世帯1195世帯、共にほぼ横ばい

- ・平成26年度町営住宅管理状況
- 管理戸数360戸
- 空き住宅48戸

- 使用料 収納率97.01%

【協議事項】

- ・町公共賃貸住宅活用プログラムについて
- 長寿命化計画から今年度5年目

- 人口構成等の見直し

- ・その他

- 除雪路線と除雪重機の妥当性、整合性について

【農業委員会】

(報告事項)

- ・平成27年度農業委員会活動計画について
- 具体的活動計画

- (1) 担い手育成対策

- (2) 地域農業振興対策

- (3) 遊休農地対策

- ・農業概況について
- 農家戸数 299世帯
- 農家人口 946人

- 農用地面積2357.14ha

総務常任委員会

6月4日開催

【税務住民課関係】

(報告事項)

- ・平成26年度町税等の収入状況について(H27.5.31現在)

- 町民税

- 1億4784万9803円

- 固定資産税

- 1億3052万1960円

- 軽自動車税

- 938万2200円

- たばこ税

- 3048万3248円

- 国民健康保険税

- 1億3785万6896円

- 介護保険料

- 8221万7400円

- 後期高齢者保険料

- 3804万2600円

- ・上川広域滞納整理機構について

- 処分件数316件

- 処分人数316人

- 徴収金額

- 333万6251円

(協議事項)

- ・比布町税条例等の一部を改正する条例(案)について



【総務企画課関係】

(報告事項)

- ・第2回議会定例会提出議案について

- ・町債について(26年度決定・27年度申請)

- ・平成26年度比布町各会計決算見込について(基金状況含む)
- ・ふるさと納税について

人数 112人

金額 3542万4千円

(平成20年度～平成26年度)

- ・町善行表彰について『大河水明さん(新町) 山内亮二さん(栃木県)』

- ・人事評価制度について

- ・地方創生総合戦略について

- ・定住・移住対策について

- ・比布駅改築について

- ・その他(まちづくり講演会・町発信制作番組放送状況など)

(協議事項)

- ・マイナンバー制度について

- ・友好交流事業について

- ・第2回議会定例会提出議案について

【生涯学習課関係】

(報告事項)

- ・平成27年度教育委員会機構図について

- ・平成27年度児童生徒数と学級編制数等について

中央小学校 160名

普通7学級

特別支援4学級

比布中学校 85名

普通3学級

特別支援3学級

- ・平成26年度学校給食費会計の決算状況について

- ・平成26年度社会教育施設の使

用料について

- ・平成26年度図書館の利用状況

等について

開館日数 292日

利用者 6748人

貸出冊数 2万4596冊

- ・スポーツ少年団、公民館教室

等の加入状況について

- ・平成27年度君の夢プロジェクト推進事業について

- ・比布町教育支援委員会の体制、運営について

- ・ほっかいどう学力向上「小中

連携、一貫教育実践事業」に

ついて

- ・スクールカウンセラーの配置

について

- ・スクールカウンセラーの配置

について

【保健福祉課関係】

(報告事項)

- ・平成27年度くるみ保育園入所児童数 81人

- ・男児32人、女児49人

- ・児童手当等の支給状況

- ・平成26年度障害者自立支援給付実績及び利用状況

- ・平成26年度福祉灯油助成状況

241世帯

助成金額 241万円

- ・平成26年度高齢者宅門口除雪

サービス利用状況

利用世帯 107戸

- ・平成26年度高齢者移動支援

(びびたく) 利用状況

《保健係》

- ・平成26年度健診等結果状況等

《衛生係》

- ・平成26年度合併処理浄化槽設置状況累計 429基

事業率 85.8%

- ・平成26年度びびクリニック診療報酬等収納状況

《介護保険係》

- ・平成26年度介護保険特別会計決算見込

- ・介護給付費の推移

要介護 62人

要介護 258人

《地域包括支援センター》

- ・平成26年度地域包括支援センター運営実績

- ・平成27年度地域包括支援センター事業計画

- ・平成27年度介護予防事業

《国保医療係》

- ・平成26年度国民健康保険特別会計決算見込

- ・平成26年度国民健康保険医療費の状況

- ・平成26年度後期高齢者医療特別会計決算見込

- ・平成27年度国民健康保険税の賦課割合(案)について

(協議事項)

《6月定例会提出議案》

- ・比布町国民健康保険税条例の一部を改正する条例(案)

- ・一般会計補正予算(案)

- ・国民健康保険特別会計補正予算(案)

後期高齢者医療特別会計補正予算(案)

- ・介護保険特別会計補正予算(案) ※介護保険分一般会計含

(検討事項)

- ・町立診療所びびクリニック経営改善要望について

(その他)

- ・人権擁護委員候補者の推薦について

について

7月8日(水曜日)

総務・産業建設 両委員会合同 行政視察調査を実施

総務常任委員会

行政調査

(7月8日)

【視察地・目的】

札幌市立福移小中学校

小学校・中学校連携の実践と成果

本年の出向調査は、総務常任委員会・産業建設常任委員会合同で、札幌市東区中沼町、小・中連携の実績を重ねる、福移小中学校に先進地視察をお願い致しました。

【福移小中学校の歴史】

福移小学校の古くは、明治26年篠路小学校分教場として開設され、福岡県の「福」と移住の「移」ととって「福移分教場」として開場されたことが、始めとされています。

福移中学校は、昭和22年6・3・3の学校制度改革により篠路中学校福移分教場として発足し、昭和25年「福移中学校」として独立しました。

その後、篠路村が札幌市と合併しましたが、地元住民の学校存続への熱意もあり、昭和30年に「札幌市立福移小学校・中学校」と改名し、昭和60年に現在の東区中沼町に新設されています。

【校舎】

校舎の構造は鉄筋コンクリート造2階建て、吹き抜けのトップライトを利用することにより、室内空間は非常に明るく、屋上部に、天文観測台として、350mmの本格的な天体望遠鏡が設備され、理科や科学の授業は基より天文観測会が定期的に開催され、保護者や地域住民の交流にも活用されています。

【校内・職員生徒】

校内は1階が主に小学生(94名)、2階が中学生(64名)、特別室は小中共有で使用されています。

校内機構は、中学校校長1名(小学校兼任)で校内全体を掌握し、小学校は教頭職1名と6名の担任教諭、教務主任・TTを含む8名で構成されています。

中学校は教頭職1名、1年生担任+副担任2名、2年生担任+副担任1名、3年生担任+副担任2名の計9名体制です。

また、小中全体の養護教諭・事務職員・用務員・校務助手・SC・相談支援員2名・配膳員2名、合計26名の教務体制です。

職員室も小中職員同室で、常に校内情報の共有が図られています。



福移小中学校玄関前にて

【小中連携】

学校行事、入学式、運動会、学校祭、卒業式、ステージ発表会(学習発表会)、レインボータイム(学校農園の収穫祭)等の校内行事は、小中共同実施で、中学3年生をリーダーに、小1から中3までの縦割りグループを構成し、子供達のリーダーシップや協力・自主性・責任感・信頼・生命の尊重・環境を学ぶことを重視しています。

また中学生が、小学生1年生と手を繋いで登校する、微笑ましい情景や、元気な小学生が中

学生を困らせてしまうという、展開も多々ありますが、逆の事例は全くないそうです。

【委員会所見】

福移小中学校は特認校でありますが、小学校6年間・中学校3年間、計9年間を通じ児童生徒の成長と教育を計画且つ、効果的に実施し、小規模校だからこそ出来得る学習指導体制の樹立を常に模索研究する学校で、学校長を始めとする教職員全員が熱意と児童生徒の元気が伝わっている学校でした。

また、本学の小学校教頭は、比布町にご実家を持つ先生で、校内案内・児童生徒の授業状況など、きめ細かな対応と明瞭なご説明を頂いた事にも深く感謝と御礼を申し上げます。



産業建設常任委員会

行政調査

(7月8日)

【視察地・目的】

- ・スノークルーズオーンズ
- ・ぴっぷススキー場再整備への新たな取り組み
- ・新十津川商工会
- ・商工業ポイント事業の取り組みと必要性

【調査内容】

スキー場の再整備にあたり前任の委員会より引継ぎ、傾注し進めてまいります。

再整備の必要性は議会常任委員会をはじめ、観光振興協議会や関係団体・事業者の共通の認識であります。平成27年度に予定していましたセンターハウスの建設、リフトの更新は財政関係上、予算化には至らず先送りとなりました。

それは一年間、新たに検討期間が出来たと考え、整備内容、センターハウスの位置や建設内容の検証を行います。

近年、求められるスキー場と施設周辺は環境や利用者が大きく変わってきています。スキーやスノーボードを滑る為だけに足を運ぶのではなく、そこで食

事を含めた余暇を楽しみ、冬季以外にも楽しめる場所であり施設であります。また、利用者は道内外の日本人、そして中国人を中心としたアジア諸国の方々、オーストラリア人を含めた欧米に住む方々です。日本の良質な雪を求めて(特にバックカントリー)外国の方が多く北海道を訪れています。

検証を行うにあたり、昨年の行政視察で伺った「スノークルーズオーンズ」様に計画内容や問題点を確認して頂くことが必要と考えました。

調査時に対応頂いた施設副支配人とスキー場施設コンサルタントの二人に、オーンズスキー場施設内の説明、冬季・夏季の利用状況と、昨年から進められた現在のぴっぷススキー場再整備計画の要点整理、現在のセンターハウスの設計解説、諸条件の確認、新規のお客様の重要性、効率的な配置計画を有した施設についてスライドで視認しながら解りやすく伺ってまいりました。

また、他施設・企画との連携、旅行会社との連携、夏場の利用、遊湯ぴっぷの積極的活用等、必要性について改めて学ん



できました。

同日、伺った新十津川商工会では、昭和45年から開始したスランプ事業を廃止し、平成15年から、より多くの事業所が加盟参加でき、町内事業にも積極的に貢献できるポイントカード会の運営について調査させて頂きました。比布商工会内にも加盟店で運営している「比布シール会」がありますが、近年の小型スノーシュー小売業者の相次ぐ閉店に伴い、事業の運営困難、新規スノーシューの開業等により、厳しい状況に追い込まれています。

「しんとつかわポイントカード会」では平成20年4月から町内の小学生以下の子ども、妊婦のいる世帯を対象にポイントシステムを利用した子育て応援事業をスタートさせ、平成25年に

はポイント利用を増やし、対象世帯を中学生以下までに拡大させ町民の認知、利用増を図っています。

【委員会初見】

新たなセンターハウスを中心としたスキー場再整備計画は、町内は勿論、近隣市町、道内外にも大きな反響を呼ぶものと考えます。整備の必要性は申し上げるまでも無く多くの意見であります。一番は「誰の為」の整備であり「何の為」の計画なのかを今一度考え、公営企業として長い歴史を有し、良佳村を存続し、新たな利用者増に重きを置いた計画であればこそであります。

新十津川のポイント事業は疲弊する町村商工業者には有効な事業の一つと考えます。商店街、商工会が町に果たす役割は多くその地域のコミュニティの中心的役割です。高齢者支援、地域支援を含む、その為にも町として商店形成、商工業者支援を進める事は大事であり、考えていく必要があります。

就業時間が過ぎているのに熱心に説明してくれた新十津川商工会の職員



全員協議会

▼▼▼5月14日開催
「比布中学校改築素案を全員協議会で報告を受け質疑・提案」

この度、全員協議会を開催し教育委員会から設計業者も出席のもと、改築に向けての説明を受け、各議員から質疑と提案を出し合いました。

町長からは「一定の方向性が決まりましたので、あらためてご意見を伺えればと思います。議員の皆様には色々な考え方が

あるとは思いますが、一定のご理解をいただけましたら早めに国の補正予算等有利な制度を利用しての改築を進めていきたいと思っています。」と挨拶されました。

続いて教育長は、昨年の5月に基本計画策定業務の入札発注、これまで学校の視察、町民・小中学校の児童生徒・保護者、教職員を対象としたアンケート調査での要望、中学校から校舎改築に関わる要望書が提出され、それらを参考にしました。改築検討委員会を5回開催、その経過についてもその都度総務常任委員会に報告協議をし、今年3月にこの基本計画策定ができました。

生涯学習課長からは、資料に基づき経過が説明され、基本設計・実施設計並びに地質調査の委託について、小学校敷地内の建築を想定した配置案の提示、眺望・小学校との連携・連結、グラウンドの活用、内部のレイアウト、子ども達の道路側からのアクセス、教室を3階建てにする提示案などで職員室を2階にしてはどうかなど、これらの提示を比較してA案B案が出されました。

設計業者さんからは、「A案、B案を基に良いところ、悪いところがありますので、これらを基に基本設計でより具体的に詰めていく考え」だと話されました。

各議員からは外観、暖房、防犯の考え方、落雪処理、エレベーターの設置、体育館、グラウンド、駐車場などへの意見、要望等が出されました。「事業費優先でなくて、子どもたちのためにどういう校舎が良いか考えていくこと」を総意としました。

《遠藤ハル子》

お詫び

議会だよりNo.78号の内容で訂正があります。

【議会運営委員】 誤 委員 中本 諭
正 委員 佐藤康則

【改選後の議員構成】

佐藤康則議員 誤 総務常任副委員長
正 総務常任委員長

上記のとおり訂正しお詫び申し上げます。



◆◆◆ 議会のうごき ◆◆◆

6 月

- 1日 産業建設常任委員会 (役場、各委員・議長)
- 4日 総務常任委員会 (役場、各委員・議長)
- 5日 第7回比布deエシキバン杯パークゴルフ大会 (グリーンパークびっぴ、議長)
- 7日 自衛隊第2師団65周年・旭川駐屯地開設63周年記念行事 (旭川市、議長)
- 8日 財務行政懇話会 (福祉会館、各議員)
議会運営委員会 (役場、各委員・議長)
- 11日 第2回議会定例会 (役場、全議員)
- 15日 上川地方総合開発期成会専門部会並びに定期総会 (旭川市、議長)
- 16日 比布町観光協会通常総会 (名寄市、議長)
- 17日 全道町議会議長会定期総会 (札幌市、議長)
- 18日 老人スポーツ大会 (町体育館、議長)
- 26-29日 東京比布会総会 (東京都、議長)
- 27日 自衛隊旭川地方協本部創立9周年記念祝賀会 (旭川市、副議長)
- 29-30日 上川町村議会議長会役員会 (美深町、議長)

- 9日 第2回大雪分会消防訓練大会 (東神楽町、議長)
- 11日 北口ゆうこう道議と語る青空のつどい (士別市、議長)
- 17日 北海道議会議員 三井あきこ「副議長就任を祝う納涼ビールパーティー」 (旭川市、議長)
- 18日 今津ひろし2015政経セミナー (旭川市、議長)
- 21日 町村議会新任議員研修会 (札幌市、新任議員)
- 23日 議会広報特別委員会 (役場、各委員)
- 24日 総務常任委員会 (役場、各委員・議長)
議会運営委員会 (役場、各委員・議長)
第4回議会臨時会 (役場、全議員)
産業建設常任委員会 (役場、各委員・議長)
- 29日 議会広報特別委員会 (役場、正副委員長)

7 月

- 2日 比布消防団夏季演習 (町内、各議員)
- 5日 札幌比布会総会 (札幌市、議長)
- 7日 全道町村議会議員研修会 (札幌市、全議員)
- 8日 総務・産業建設両常任委員会合同視察調査 (札幌市・小樽市・新十津川町、全委員・議長)



めんこい いちご狩り (くるみ保育園)

比布駅には皆さんの心の中にたくさんの思い出があると思います。・・・解体が終了してちょっと寂しいけれど、平成28年3月には新しい駅舎が出来上がる予定です。早くお目にかかりたいですね。



今年の夏は暑いのか寒いのかどっちなんだと叫びたくなるような天候が続いています。
現国会においても、「米は一粒たりとも日本に入れない」といいながら10万トンもの米を輸入しないとならないかのような報道もされています。
「安保法案も」憲法の解釈を変えれば自衛隊はどこにでも派遣できるような有様です。比布町からも多くの子どもたちが自衛隊に入隊していききました。娘の同級生にも2人の自衛隊員がいて心配です。
日本人は本当にこれを理解しているのでしょうか。
「TPP」も「安保法案」も、もつともつと話し合う必要があると思います。
《八巻良博》

◆ 編集後記 ◆